

## 平成 31 年度 推薦入試試験問題（生活科学科 生活科学専攻）解答例

### 問 1（50 点）

#### 【採点のポイント】

- ・ 不用衣服増加の背景が説明されていること。
- ・ 不用衣服増加の問題点が説明されていること。
- ・ 不用衣服の活用方法が具体的に述べられていること。
- ・ 解答全体の論理に一貫性があること。
- ・ 基本的な文章表現ができていること。

#### 【解答例】

現在は質の良い安価な既製服が大量に生産され、アパレル企業は、購買意欲を引き出す工夫をして販売している。そのため、本当に必要な服ではなく、企業の意図や流行に影響されて服を買ってしまうことが不用衣服増加の背景にある。また、繊維の原料には、石油などの限りある資源が使われ、服を製造する過程でもエネルギーを多く消費し、排水などによる自然環境への負荷も大きいとされる。つまり、不用衣服増加によって、資源や環境への影響という問題が現れる。

不用衣服の活用法として、まず、リメイクが考えられる。デニムのズボンは生地が丈夫なので、バッグやポーチに作り変えられる。ブラウスであれば、袖を短くしたり襟を取ったりするだけで見た目が大きく変わり、再び着用したくなる。また、ミシンが無い場合もあるので、リサイクルショップやフリーマーケットを利用すれば、必要とする人に着てもらえる。(389 字)

### 問 2（50 点）

#### 【採点のポイント】

- ・ ユニバーサルデザインが理解できていて、必要な理由が述べられていること。
- ・ 衣服におけるユニバーサルデザインの具体的な工夫が述べられていること。
- ・ 解答全体の論理に一貫性があること。
- ・ 基本的な文章表現ができていること。

### 【解答例】

高齢者や体が不自由な方には、配慮が必要なことが多く、安心して暮らせるバリアフリーという考え方が浸透してきた。しかし、バリアフリーのデザインやモノづくり、環境整備には時間と費用がかかるうえ、逆に使用者に限られる場合も出てくる。したがってこれからは、特定の使用者のためだけではなく、年齢や性別、身体機能などの異なるすべての人が無理なく、利用しやすいデザイン、つまりユニバーサルデザインを実現していくことが重要となる。今後、多様な社会に対応するために、また快適に生活していくために、あらゆる事柄でユニバーサルデザインを取り入れることが必要不可欠である。

具体例として、最近流行のビッグシルエットがある。ゆとり量が多いため、腕などを大きく動かさなくても楽に着用できる。また、肩や脇にボタンやチャックをつける工夫もある。そうすれば、容易に頭や肩を出し入れてきて、誰でも着やすくなる。(388字)